

CSR 報告書2019を読んで



阪 智香 (さか ちか)

関西学院大学学長補佐・商学部教授・商学博士
現在、日本学術会議連携会員、大阪府環境審議会委員、日本経済会計学会理事、日本社会関連会計学会理事等。著書に「環境会計論」(東京経済情報出版)等。日本会計研究学会学会賞等受賞

全 体

今年のCSR報告書では、2018年に新しく見直された環境取り組みプランに基づく実績やSDGsへの対応が示されています。この新しいプランは、計画期間を従来の3年から5年とし、エコビジョン(2017年制定)の2025年ターゲットとの整合性を確保したものです。2018年度の実績からは、すべての分野の目標がグローバルレベルで達成されていることが確認できます。冒頭の特集では、「AI需要予測サービス」が、エネルギー消費削減、生産性向上、働き方改善などの社会課題解決に結びつくことが示されており、CSR活動の広がりを感じます。また、昨年に引き続き、CSR重点課題ごとに、継続的な取り組みや新しい取り組みが丁寧に開示されており、適合性・明瞭性・比較可能性を備えた報告書となっています。

重点課題分野別の取り組み

「消費者課題」では、品質向上・製品安全確保と人材育成とを一体として、全社的かつ継続的に取り組まれている内容が記載されています。

「環境」では、環境取り組みプランが着実に成果をあげており、ISO14001:2015のグローバル統合認証取得(2017年)の効果が現れているものと評価できます。時系列の実績と併せて見ても、継続的な環境負荷削減が実現されていることがわかります。また、環境マスマランス(グループの事業活動全体のインプット・アウトプット

データ)、サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量、環境会計、サイトデータ等の詳細な環境データが開示されていることも、報告書の網羅性や過年度との比較可能性を高めています。

「人権・労働慣行」では、9頁に及ぶ充実した取り組み内容が記載されており(詳細版)、介護との両立や柔軟な働き方を支援するような新しい取り組みも記載されています。とりわけ、2018年度を「健康経営元年」と位置づけ、全従業員を対象として様々な健康増進活動が始められ、早くも2019年2月には「健康経営優良法人～ホワイト500」に認定されるなど、短期間で成果につなげた本気度が伝わります。

「公正な事業慣行」では、近年の豪雨による水害被害の発生を受けて「災害時緊急ガイドライン」の見直しもなされました。

加えて、事業継続マネジメントの国際規格であるISO22301の認証取得や、製品セキュリティインシデント対応窓口の体制構築といった2018年度の実績が盛り込まれています。

今後に向けて

2019年度にはCSRの重点課題やKPI(重要業績評価指標)の見直しを行い、事業を通じた重点課題を取り込み、各事業部を加えた新しい推進体制がとられる予定のようです。これまでの真摯で着実な取り組みを土台として、事業を通じた社会課題解決を強化し、その道筋と進捗状況をより明確にすることで、CSR活動のメインストリーム化と質の向上が実現できるものと期待します。財務KPIや環境・社会KPIを連結管としてSDGsへのより具体的な対応も可能となるでしょう。健康経営への取り組みも先進的かつユニークで、長期的には企業価値の向上にも結びつくと思います。健康経営のモデル企業として、他の企業にも広がることを願っています。自動車業界を取り巻く100年に1度という転換期を迎え、企業の在り方や従業員の働き方に対する意識から変革しようとする姿勢は、日本経済の課題である生産性改革にもつながるものと期待しています。

ご意見をいただいて



株式会社デンソーテン
執行役員常務

後藤 俊樹

阪先生にご意見をいただくのは4年目になります。

これまで先生にいただいた貴重なご意見は、私たちのCSR活動を充実させるための参考とさせていただいております。この場をお借りして、改めて心より感謝を申し上げます。

今年は、環境取り組みプランに基づく継続的な環境負荷削減や、個人の事情に合わせた柔軟な勤務制度の導入をはじめとする働き方改革の取り組みなどに、高い評価をいただきました。

特に健康経営については、経営トップ以下、「健康でなければ良い仕事はできない」との信念を持って取り組んでおり、今回高く評価していただいたことを励みに、今後、よりいっそう推進していきたいと思います。

私たちは現在、SDGsを踏まえて、事業を通じた社会課題の解決に向けた活動を加速させるべく、CSR重点課題およびKPIの見直しを進めています。100年に1度といわれる自動車産業の変革期にあっても「誠」の精神を大切に、よき企業市民として社会課題の解決に真摯に取り組む、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

当社グループの活動や本報告書に対して、率直なご意見・ご感想をお聞かせいただければ幸いです。